



## 世 界 史 B 問 題

はじめに、これを読みなさい。

1. この問題用紙は 17 ページある。ただし、ページ番号のない白紙はページ数に含まない。
2. 解答用紙に印刷されている受験番号が正しいかどうか、受験票と照合して確認すること。
3. 監督者の指示にしたがい、解答用紙の氏名欄に氏名を記入すること。
4. 解答は、すべて解答用紙の所定欄にマークするか、または記入すること。所定欄以外のところには何も記入しないこと。
5. 問題に指定された数より多くマークしないこと。
6. 解答は、必ず鉛筆またはシャープペンシル(いずれも HB・黒)で記入のこと。
7. 訂正する場合は、消しゴムできれいに消し、消しくずを残さないこと。
8. 解答用紙は、絶対に汚したり折り曲げたりしないこと。
9. **解答用紙はすべて回収する。**持ち帰らず、必ず提出すること。ただし、この問題用紙は、必ず持ち帰ること。
10. 試験時間は 60 分である。
11. マーク記入例

良い例	悪い例
	

〔 I 〕 次の文章を読み、下記の間 に答えなさい。

1143年に、カステイリヤ王国から自立してイベリア半島に建てられたポルトガル王国は、<sup>⑦</sup>他国にさきがけてインド航路を開拓して海外進出をはたした。現在のポルトガルの首都リスボンにあるジェロニモス修道院は、インド航路開拓に功績のあった「航海王子」エンリケとヴァスコ＝ダ＝ガマを称えて、ポルトガル国王マヌエル1世が建設させたものである。「航海王子」エンリケは、ジョアン1世の王子であるが、1415年にジブラルタル海峡に面したアフリカ西北端の港市①を占領し、これをきっかけにポルトガルの海外進出が本格化した。

ジョアン2世の治世であった1488年には、②がアフリカ南端の岬である喜望峰に到達した。ジョアン2世は、国内の貴族の反乱を抑えて王権を強化するとともに、インド航路の開拓を推し進めて海外領土の獲得を図った。ジョアン2世は、スペイン王国との間で1494年に③条約を結び、海外領土を分割する<sup>④</sup>ことを内容とした協定を締結した。この条約は、前年に教皇アレクサンデル6世が設定した、ポルトガルとスペインの海外領土分割線である教皇子午線を修正するものであった。

マヌエル1世の治世になると、ヴァスコ＝ダ＝ガマが喜望峰を經由してアフリカ東岸を北上し、1498年、インド西岸に到達してインド航路開拓に成功した。<sup>⑤</sup>また、1500年にはインドを目指したポルトガルの航海者である④が現在のブラジルにあたる地域に漂着し同地をポルトガル領と宣言したことで、ポルトガルは南アメリカへの進出もはたした。ブラジルは、前述の③条約で教皇子午線が修正された結果、南アメリカで唯一ポルトガル領となった。

<sup>⑥</sup>1510年にインド西岸にある港市を占領したポルトガルは、1511年にはマレー半島南部に位置するマラッカを占領した。また、ポルトガル人の航海者であるマゼランは、1519年、スペイン王室の命令で香辛料の特産地であるモルッカ諸島を目指して西回りの航海に出発し、南アメリカの南端の海峡を経て太平洋を横切りフィリピンのセブ島に到達した。マゼランは現地で死亡したが、その後、彼の部下が世界周航を成功させた。

1550年には九州の平戸にポルトガル船が来航したことで、ポルトガルと日本

の間で南蛮貿易が始まった。ポルトガルは、1557年には、中国大陸南部の珠江河口沿いの町である ⑤ の居留権を明朝から得てそこを対明貿易の拠点とした。この町は、1887年にポルトガルが正式に領有することとなり、1999年に中国に返還されるまでポルトガル領であった。

このように世界に多くの領地を獲得し貿易による莫大な富を得たポルトガルであったが、香辛料貿易の衰退によって16世紀後半から徐々に国力は衰えて行った。1580年に王家が断絶したポルトガルは、カルロス1世からスペイン王位を継いだフェリペ2世によりスペインに併合されるに至った。

⑥

問1 文中の空欄の①～⑤のそれぞれにもっとも適切と思われる語句を解答欄に記入しなさい。

問2 文中の下線部⑦～⑩に関して、下記の間(ア)～(オ)に答えなさい。解答は解答欄に記入しなさい。

(ア) 下線部⑦に関して、カスティリヤ王国は、8世紀に始まったイスラーム教徒からイベリア半島の領土を取り戻そうとするキリスト教徒の戦いにおいて中心的役割を果たした。8世紀に始まり1492年にイベリア半島における最後のイスラーム政権であるナスル朝が滅亡するまで約800年間にわたって続いたこの戦いを、「再征服」を意味するスペイン語で何というか。

(イ) 下線部⑧に関して、ポルトガル王国とならんで新航路を開拓し海外進出の先鞭をつけたスペイン王国は、1479年にイベリア半島中央部のカスティリヤ王国とその隣国でイベリア半島北東部にあった王国が合併して成立した。このイベリア半島北東部にあった王国の名前を何というか。

(ウ) 下線部⑨に関して、ヴァスコ＝ダ＝ガマが1498年に到達したインド西岸の港市の名前を何というか。

(エ) 下線部㊦に関して、1510年にインド総督アルブケルケの占領によりポルトガル領となり、アジア貿易やキリスト教布教の拠点となったインド西岸にある港市の名前を何というか。

(オ) 下線部㊧に関して、フェリペ2世は、ポルトガルをスペインに併合するとともに、1571年には西方進出を目指していたオスマン帝国の艦隊をスペイン・ヴェネツィア・ローマ教皇の連合艦隊でコリント湾において撃破し、スペインの最盛期をもたらした。このスペイン・ヴェネツィア・ローマ教皇の連合艦隊がオスマン帝国の艦隊を破った海戦を何というか。



〔Ⅱ〕 次の文章を読み、下記の問題に答えなさい。

19世紀半ばにアメリカ合衆国で石油の商業生産が開始されると、欧米では照明用の燃料として鯨油にかわって石油から精製された灯油が用いられるようになった。こののちカフカスや、① 王国が支配していた北部を除きオランダの支配下にあったスマトラ島でも、19世紀末までに石油の生産が行われるようになった。

当時、世界最大の産油量を誇ったアメリカでは、② が創立したスタンダード・オイルが業者間の熾烈な競争を勝ち抜き、石油産業の垂直的統合を達成し、19世紀末には同社による米国石油市場の独占化が進んだ。こうしたスタンダード・オイルの独占に対しては、不利益を被る農民や労働者から批判が高まった。連邦政府としても対応を取らざるを得なくなり、1890年、連邦法を制定して、企業の独占を規制するようになった。スタンダード・オイルは、1911年には同連邦法に違反するとして連邦最高裁判所の判決に基づき、会社の分割を余儀なくされたのである。

20世紀になり、自動車の大量生産などにより石油が動力エネルギー源として用いられるようになって、石油の利用が広汎化・多様化すると、石油の需要は急速に増大した。スタンダード・オイルの分割で生まれた企業のなかには、他国の石油資本と同様、世界的な石油需要の増大とともに巨大化し、ロシアやアジアの市場でスタンダード・オイルと競合していた英蘭系のロイヤルダッチ・シェルなどととともに、のちに「セブン・シスターズ」と呼ばれる国際石油資本(石油メジャー)となるものもあった。

第二次世界大戦後、石油生産の中心は、中東地域に移った。もともと中東諸国を含め第三世界の産油国は、石油輸出により直ちに経済的に豊かになったわけではなかった。これは、すでに石油国有化を1938年に達成していた③ など一部の国を除き、第三世界のほとんどの産油国では自国資源に対する国際石油資本の利権が存続していたため産油国の取り分はごくわずかであり、また石油価格の決定が外国資本である国際石油資本によりなされていたためである。1950年代には、国際石油資本やその本国による利益独占を排除しようとして、イラン

の ④ 首相が国有化を試みたが、英米秘密機関の工作により頓挫した。他方、1960年には、国際石油資本による価格切り下げに対抗する目的で、第三世界の産油国5カ国により石油輸出国機構が設立されたが、この時期にはアメリカ合衆国などの非加盟国による石油供給が十分にあったこともあって、機構の市場への影響力は小さく、国際石油資本の優位は変わらなかった。

しかしながら、アフリカの植民地が数多く独立した1960年代になると、第三世界の多くの国々は、先進国が旧植民地国を支配・搾取している状況を非難し、自国の天然資源に対する恒久的な主権(資源主権)を主張するようになり、国連の場でもこれを肯定する決議が採択されるようになった。こうした流れを受けて、中東の産油国においても、1960年代末から1970年代にかけて、外国資本の石油企業の国有化がなされた。この時期には、第三世界において石油開発がすすみ、これらの国の産油量のシェアが大幅に高まり、先進国では環境汚染問題などによりエネルギー需要が石炭から石油へシフトして、石油への依存が高まった。このようにして第三世界の産油国自らが輸出量、価格をコントロールする基盤がつくられていった。

そうしたなかで1973年、アラブ石油輸出国機構が第4次中東戦争に際してイスラエルを支援する諸国に対して原油の輸出停止・輸出制限措置をとり、また加盟国も増えた石油輸出国機構が原油価格の大幅引き上げを決定すると、世界経済は深刻な不況に陥った。こうして第三世界の産油国が石油の生産量・価格の決定について大きな発言力を持つようになった。

1970年代の二度にわたる石油危機を通じて、石油価格の変動への対応を迫られた欧米各国は、エネルギー資源の多様化や、石油燃料を効率的に利用する製品の開発に力を入れるようになった。たとえば日本の自動車企業は、石油危機を受けて低燃費の自動車開発を強化し、アメリカ合衆国への輸出量を大幅に伸ばした。1980年にはアメリカ合衆国内での日本車のシェアは約20パーセントにまで達し、米国自動車産業は大きな経済的打撃を受けた。1981年には、当時の ⑤ 政権からの日本への政治的圧力は「日米自動車摩擦」と呼ばれるほどに高まったが、日米間での協議の結果、同年、日本側が輸出自主規制を実施することになった。この措置は、当時のGATTに照らすと違法である可能性が高いも

の(灰色措置)であった。

他方、産油国は、石油危機後の石油価格の上昇により得た莫大な利益を得ることになった。こうした産油国の収益(オイル・マネー)は、欧米の民間銀行を通じて、発展途上国へ大量に融資された。しかし1980年代に入ると世界的な不況により、債務国の収益源である一次産品の輸出が激減したため、債務国の返済負担が激増し、1982年には ③ を皮切りに、いわゆる累積債務危機がおこった。

現代において石油は、その経済的重要性ゆえに、国際社会において政治的重要性をも持つようになってきている。1973年にアラブの産油国がとった石油戦略は、石油を安全保障という政治的な問題の解決手段として用いるものであった。  
これに対して、近年では石油輸入国あるいは国連が、安全保障問題を解決するために、輸入を制限・禁止することで、石油を政治的な武器として用いるようになってきている。

問 1 文中の空欄の①～⑤のそれぞれにもっとも適切と思われる語句を解答欄に記入しなさい。

問 2 文中の下線部ア～オに関して、下記の間(ア)～(オ)に答えなさい。解答は解答欄に記入しなさい。

(ア) 下線部アに関して、19世紀前半、ロシアは2回にわたるイランとの戦争に勝利して、イランの支配地域を割譲させることでこの地域の支配を確立した。第2次イラン＝ロシア戦争の結果としてむすばれ両国間の国境線を確定した条約を何というか。

(イ) 下線部イに関して、この連邦法を何というか。

(ウ) 下線部㊸に関して、独立後も発展途上国が貧困から抜け出せないのは旧植民地時代から続く従属的な経済構造が解消されないためであるとの認識から、途上国と先進国との間の経済格差を是正するため、途上国の開発促進を目的として1964年に国連総会決議により設立された国連総会の補助機関を何というか。

(エ) 下線部㊹に関して、この戦争の原因となった第3次中東戦争の際にイスラエルが占領して以降、第4次中東戦争後も返還されることなく、現在も国連平和維持部隊の活動(日本も1996年から2013年まで参加)が実施されているのはどこか。

(オ) 下線部㊺に関して、2002年、ウラン濃縮活動から核兵器開発疑惑が浮上し、2006年以降国連による経済制裁が科され、その後欧米により石油の取引や輸入を禁止する措置を含む独自制裁の対象となった国はどこか。



〔Ⅲ〕 次の文章を読み、下記の問に答えなさい。

中国は、古来、皇帝が中央集権的に全土を統治する帝制システム、すなわち君主による ① 体制をしいてきた。秦の始皇帝に始まり、清の康熙帝、乾隆帝などいずれもそうである。ところが、19世紀末から20世紀初頭にいたり、帝国主義勢力によって「半封建、半植民地」と形容される状態へと追い込まれ、近代国民国家への脱皮を余儀なくされていった。

富国強兵を目指して西洋の学問や技術を導入した洋務運動<sup>⑦</sup>や、日清戦争の敗北を受けて帝制から立憲君主制への転換を主張した1895年から98年の ② などを経て、清朝は1908年には ③ を発布し、立憲制へと転換する展望を示した(光緒新政)。他方で清朝の打倒を目指す革命運動も、とくに海外で盛んになり、1905年には孫文らによって東京で革命諸派を結集した中国同盟会が発足した。

1911年10月には湖北の中心都市武昌で革命派が蜂起し、清朝からの自立を宣言すると、革命の火はあつという間に各省へ広がった。12月には革命勢力は孫文<sup>④</sup>を臨時大総統に選出し、1912年元日には、南京で中華民国臨時政府を成立させた。これに対して清朝は、実力者 ④ を起用して南京政府と交渉させた。しかし、 ④ 自身が臨時大総統に就き、北京政府を成立させるという妥協が、南京政府との間で成立した。その結果、同年2月には清朝最後の皇帝、宣統帝が退位し、これにより長い帝制の歴史に終止符が打たれた。これを辛亥革命という。

その後も、中央政府が北京政府と広東政府に分裂するなか、立憲制移行への試みは断続的に続いた。宋教仁らによって作成された臨時約法(1912年)、 ④ らの新約法(1914年)に始まり、曹錕憲法(1923年)、南京国民政府による訓政綱領(1928年)、中華民国訓政時期約法(1931年)、中華民国憲法草案(五五憲草、1936年)などを経て、抗日戦後になってようやく中華民国憲法(1946年)を公布した。

この憲法は清末以来の憲政運動の到達点であったが、折しも国民党と共産党の内戦、そして国際社会の冷戦<sup>⑧</sup>に巻き込まれ、実効性を発揮することなく、1949

年からは国民政府の ⑤ への敗走にともない、適用範囲を ⑤ だけに限定することとなった。中国では内戦に勝利した共産党が、これに代えてソヴェト連邦の憲法に倣った中華人民共和国憲法を制定し(1954年)、中国における近代立憲主義は社会主義憲政へと大きく変質した。

問 1 文中の空欄①～⑤のそれぞれにもっとも適切と思われる語句を下記の語群から一つずつ選び、その記号を解答欄にマークしなさい。

[語 群]

- |          |          |         |
|----------|----------|---------|
| A 朝貢     | B 海南島    | C 冊封    |
| D 五・三〇運動 | E 零八憲章   | F モンゴル  |
| G 大清民律草案 | H 欽定憲法大綱 | I 王朝    |
| J 民主主義   | K 公羊学派   | L 朝鮮    |
| M 袁世凱    | N 軍閥     | O 啓蒙運動  |
| P 陳独秀    | Q 台湾     | R 五・四運動 |
| S 変法運動   | T 蒋介石    | U 北伐    |
| V 封建     | W 和魂洋才   | X 李鴻章   |



問 2 文中の下線部㉗～㉙に関して、下記の間(ア)～(オ)に答えなさい。解答は各問の選択肢の中からもっとも適切と思われるものを一つ選び、その記号を解答欄にマークしなさい。

(ア) 下線部㉗に関して、この運動の基本にあった考え方に「中体西用」と呼ばれる方針があった。この運動が成功しなかった理由でもあったこの考え方につき、次の記述のうち正しいものはどれか。

[選択肢]

- A 従来の中華帝国の基本的な枠組を維持しつつ、西洋文明を専ら手段として取り入れることには限界があった。
- B 中華文明を「手段」とし、西洋文明を「本体」と見なす姿勢には、国際的支援が得られなかった。
- C 当時の中国の社会状況では、こうした論理で西洋文明からの脱却を正当化することは難しかった。
- D 康有為は西洋の文明を取り入れることに急で、文学革命を起こしたが、中国には中国の国情があることを十分に踏まえていなかった。
- E 清朝の統治理念である道教を維持しながら、近代技術を導入しようとする考え方であった。

(イ) 下線部㉠に関して、この人物の説明として、次の記述のうち正しいものはどれか。

〔選択肢〕

- A 黄埔軍官学校校長を務め、1926年に国民革命軍司令官に就任した。1928年には国民政府主席となり、国民党の実権を掌握した。
- B 清末、民国初期の軍人・政治家。辛亥革命後、臨時大総統に就き、1915年には帝政の復活を宣言した。
- C 中国国民党を創設し、国共合作を実行して軍閥を打倒し、中国の統一を目指した。
- D 東北三省を支配した奉天軍閥の首領。日本の支援を受けて、1927年には北京政府を支配した。
- E 1927年、江西省井崗山で中華ソヴィエト政権を樹立し、長征を経て、中国共産党内の主導権を掌握した。

(ウ) 下線部㉡に関して、次の記述のうち正しいものはどれか。

〔選択肢〕

- A アジア、東欧では社会主義陣営が拡大した。ベトナム、朝鮮、ドイツなどの旧植民地、旧国家が分断され、南北、あるいは東西各側に国家が生まれた。
- B 戦争の危機に備えて、中国全土で戒厳令がしかれ、憲法の実施が停止された。
- C 1970年代にはいると米・ソ両国の軍縮と緊張緩和の流れは、アメリカ合衆国側のジョンソン政権の登場により加速した。
- D 米・ソ両国は化学兵器開発競争を続け、自陣営の結束をかため、同盟国の拡大をはかろうとした。
- E 1962年、ソ連がベトナムにミサイルを配備すると、アメリカ合衆国がその撤去を要求して、海上封鎖を実行したために、米・ソの緊張が高まった。

(エ) 下線部⑤に関して、ソヴィエト連邦の歴史について、次の記述のうち正しいものはどれか。

〔選択肢〕

- A スターリンは世界革命を推進するため、1919年レニングラードでコミンテルン(共産主義インターナショナル)を創設し、世界の共産党を指導しようとした。
- B 1917年にレーニンが指導するボリシェヴィキによる二月革命が勃発し、ソヴィエト政権が誕生した。
- C 第二次世界大戦後、ポーランドを中心に社会主義陣営はコメコン(経済相互援助会議)やワルシャワ条約機構を発足させて、資本主義陣営に対抗した。
- D 1956年、スターリンはフルシチョフ体制下での個人崇拜や反対派の大量処刑などを批判し、自由化の方向を打ち出した。
- E 1985年にゴルバチョフが共産党書記長に就き、いきづまった社会主義体制の立て直しのためにペレストロイカと呼ばれる改革運動を推進した。

(オ) 下線部④に関して、中華人民共和国の歴史について、次の記述のうち正しいものはどれか。

[選択肢]

- A 1949年10月1日、毛沢東は首都南京で中華人民共和国の成立を宣言した。
- B 1966年からプロレタリア文化大革命が始まり、劉少奇や鄧小平などが実権派として批判され、失脚した。
- C 1950年代後半には土地所有の集団化を進め、都市には人民公社が設立された。
- D 1978年、周恩来は農業、工業、教育、科学技術の現代化の推進、改革・開放路線への転換を打ち出した。
- E 1989年6月4日、中国国民党は北京の天安門広場に人民解放軍の戦力を投入して、民主化を要求する市民の運動を押さえ込んだ。

〔IV〕 次の文章を読み、下記の問題に答えなさい。

ローマ時代における初期の宗教は自然崇拜の多神教であったが、しだいにギリシアの影響を受けて、ギリシアの神々とイタリアの神々とは結び付いていった。<sup>⑦</sup> また、東方征服が進むにつれて、東方系の密儀を伴う神秘宗教が流入するようになり、イシス教やミトラ教などが広まった。さらには、ユダヤの地に成立したキリスト教も広まりをみせた。

ローマの文学はヘレニズム文化の一環として発達し、ギリシア文学の伝統を引き継いだものである。従来の伝統と形式を重んじ、それらに準拠しつつ作者の個性を盛り込むことを理想とした。その結果、ギリシア文学の模倣の要素が大きかった。この頃の詩人として有名なのは、アウグストゥス(オクタウィアヌス)の時代に活躍した  であり、英雄叙事詩『アエネイス』で知られている。また、ホラティウスは詩人として有名であり、オウィディウスも神話や人間の性を描いて有名である。<sup>④</sup>

一方、ローマの人々は元来、実用性を重んずるところがあり、歴史的叙述には名著が多い。例えば、ギリシア人  は、ローマに捕らわれたものの、スキピオ家の保護を受けて歴史研究に従事し、『歴史』を著して政体循環史観や混合政体論を唱えた。 は、『ガリア戦記』を著して、自身のガリア遠征中の軍事行動を簡潔な文体で述べている。また、 はアウグストゥスの庇護を受けて『ローマ建国史』全142巻を編纂した。これはローマ建国からのローマ史をラテン語で著したものである。 は『年代記』や『同時代史』、『ゲルマニア』などを著している。プルタルコスもギリシア人ではあるが多数の著述があり、特にそのなかでも『対比列伝』(『英雄伝』)はよく知られている。同じくギリシア人のストラボンも、イベリア半島からインドまでの地理・歴史を著述した『地理誌』で有名である。

ローマでは早くから雄弁術が重んじられ、多くの雄弁家が知られている。 に反対して共和政治擁護のために活躍したキケロもその一人である。キケロはストア哲学(ストア学派)の影響を受けていたが、このストア哲学は共和制末期から帝政期にかけての思想の主流となった。このストア派の哲学者として

は、他にセネカやエピクテトス、マルクス＝アウレリウス＝アントニヌス帝<sup>④</sup>が有名である。

一方、法律制度の整備に関しては、ローマ人の実際的な能力がよく発揮された。ローマ最古の成文法といわれる十二表法をはじめとして、リキニウス・セクステイウス法やホルテンシウス法が定められ、平民は貴族と同じ市民権を持つこととなった。ローマ人の法律に関する関心は、当初は市民への適用を目的とする市民法の制定にあったが、ローマの支配権が拡大したことや、人は同一の法と正義のもとに服するべきであるという考え方の普及によって、帝国内の市民・外国人に差別なく適用されるべき万民法の制定が考えられるようになった。こうした考え方のもとに多くの法律が制定され、2世紀から3世紀の初めにかけてパピニアヌス<sup>⑤</sup>らの法学者も出た。なお、この頃に制定された法律などは、後に『ローマ法大全』<sup>⑥</sup>として編纂され、後世のヨーロッパ諸国の法典編纂に大きな影響を及ぼした。



問 1 文中の空欄①～⑤のそれぞれにもっとも適切と思われる語句を下記の語群から一つずつ選び、その記号を解答欄にマークしなさい。

〔語 群〕

- |             |            |
|-------------|------------|
| A 大カトー      | B 小プリニウス   |
| C ヒエロニムス    | D タキトゥス    |
| E ポリビオス     | F アウグスティヌス |
| G 大プリニウス    | H ユスティノス   |
| I プロティノス    | J アンブロシウス  |
| K テミストクレス   | L ペイシストラトス |
| M ユリウス＝カエサル | N プトレマイオス  |
| O オドアケル     | P テルトウリアヌス |
| Q ポリュカルポス   | R クラッス     |
| S ガレノス      | T ウェルギリウス  |
| U スラ        | V デモクリトス   |
| W リウィウス     | X ピラト      |
| Y エウセビオス    | Z アタナシウス   |

問 2 文中の下線部㉗～㉙に関して、下記の間(ア)～(オ)に答えなさい。解答は各問の選択肢の中からもっとも適切と思われるものを一つ選び、その記号を解答欄にマークしなさい。

(ア) 下線部㉗に関して、オリンポス 12 神のなかで商業を司るとされていた神は何か。

〔選択肢〕

- |           |        |         |
|-----------|--------|---------|
| A ヘステシア   | B ヘルメス | C アルテミス |
| D ヘファイストス | E デメテル |         |

(イ) 下線部㉑に関して、ホラティウスの代表作とされる作品は次のうちどれか。

〔選択肢〕

- A 『転身譜』                      B 『告白録』                      C 『女の平和』  
D 『叙情詩集』                    E 『愛の歌』

(ウ) 下線部㉒に関して、マルクス＝アウレリウス＝アントニヌスはいわゆる五賢帝の一人であるが、次のうち五賢帝でない者はだれか。

〔選択肢〕

- A アントニヌス＝ピウス                      B ネルウァ  
C ハドリアヌス                              D トラヤヌス  
E ディオクレティアヌス

(エ) 下線部㉓に関して、法学者パピニアヌスの著書として知られているものは次のうちどれか。

〔選択肢〕

- A 『解答録』                      B 『義務論』                      C 『労働と日々』  
D 『神統記』                      E 『国家論』

(オ) 下線部㉔に関して、『ローマ法大全』は、6世紀にユスティニアヌス帝がトリボニアヌスらの法学者に命じて編纂させたものであるが、このなかに収録されているもののなかでラテン語で書かれていないものは次のうちどれか。

〔選択肢〕

- A 『ユスティニアヌス勅法彙纂』(『旧勅法彙纂』)  
B 『法学提要』  
C 『新勅法』  
D 『ローマ法学説類集』(『学説彙纂』)  
E 『改訂ユスティニアヌス勅法彙纂』(『勅法彙纂』)